

＝シリーズ発掘調査報告＝

【中山の陥穴（おとしあな）】

現在発掘している武川町中山の山中で、陥穴がみつかりました。陥穴の起源はおよそ 3 万年前の旧石器時代までさかのぼります。以降、ずっと作られ続け、つい数十年前まで私たちの身近に存在していました。新田次郎さんが 1956 年（昭和 31 年）に発表した「おとし穴」という小説があります。長野県富士見町乙事には、小説の題材となったと思われる山犬（ニホンオオカミ）除けのおとし穴が残っています。

中山の陥穴は細長い楕円形です。長さは 2m ほど、幅が 1m、深さは 1m50cm ほどでしょうか。穴の口は広く、底の幅が狭いのが特徴です。陥穴は動物を獲るためのワナで、穴の形は獲ろうとしていた動物の体にあわせて掘られたのだらうと思われます。この穴にあう動物、それはおそらく鹿だったのではないのでしょうか。陥穴の底には小さな穴が並んでいました。ここには杭が立てられていたようです。陥穴の研究が始まった頃、この杭は先端をとがらせたもので、陥穴に落ちた動物の息の根を止めるための仕掛けだと考えられていました。ですが、これはどうでしょう。動物の肉は傷みやすいでしょうし、狩りの目的は肉ばかりとは限りません。皮も大切でしたでしょうし、内臓つまり「モツ」も食べていたかもしれません。そう考えると、掛かった動物を傷めるようなことをしていたとは考えにくいのです。ですから、陥穴の杭は、掛かった動物がよじ登ったり飛び上がったりして逃げてしまわないように、体の自由を奪うためのものだったと考える学者が今では多いようです。

陥穴のもう一つの特徴は、一つだけ掘られることはあまりなく、いくつかの穴を同時に作ったと思われることです。中山の陥穴も谷から尾根に登ったところに列をなすように掘られていました。シカは脅

かされると高い所に駆け上がる習性を持っているようです。陥穴は、何人かの人々が谷にいるシカを脅し、陥穴のある高台へ追い込んで捕らえた「追い込み猟」と呼ばれる猟法に使われたものであったかもしれません。

陥穴を調査しても土器や石器はあまりみつかりません。土器や石器がないと陥穴がいつ作られたかわかりません。まれに陥穴の底面の小さな穴から杭の断片が炭のようになって残っていることがあります。長野県原村の南平遺跡の調査では、この炭を分析して年代を調べました。結果、戦国時代から江戸時代の初めごろのものだとわかりました。南平の陥穴は、形は縄文時代の陥穴と変わらず、杭の設置方法だけが違っていました。縄文時代に考え出された陥穴の形がずっと変わることなく受け継がれてきたということでしょうか。陥穴は日本書紀や日本紀略といった文献にも出てきます。人が落ちて危ないので陥穴やワナをむやみに作るな。そういった禁令が出されていたようです。この時代の陥穴が縄文時代のものと同じ形だったのか、残念ながら文章を読んでもわかりません。縄文時代の知恵が、時代が変わっても、ずっと引き継がれてきたと考えるとちょっとワクワクします。中山の陥穴はいつ作られたものなのでしょう。日本文化の中に受け継がれた縄文時代以来の伝統、その存在を示すものであればいいなと思います。



（文責・写真 功力調査員）

フットパス 第4弾 ぶら〜りおびけえど

去る令和元年11月21日(木)に、今回でフットパスシリーズ4回目となる「ぶら〜りおびけえど」を開催しました。本シリーズ初めて明野町を飛び出し北杜市須玉町江草地区を中心に実施しました。「小尾街道」もいよいよ須玉地区に入りました。仁田平公民館を出発した一行45名は、①根古屋神社(大ケヤキ)〜②十五所神社〜③馬場口留番所〜旧江草小学校跡の約7kmを無事踏破しました。

上記の各地点では例によって明野地区郷土研究部の方々による由緒や番所の役割など、丁寧な解説をいただきました。また篠原宮司から十五所神社にまつわる地域での役割や貴重なお話をしていただきました。



① 根古屋神社(大ケヤキ)・詰所跡



②十五所神社

③馬場口留番所

これまでのコースの中では比較的高低差のあるコースでしたが、皆さん紅葉の映える小尾街道を堪能されていました。

わら細工に挑戦 …わら馬を作ろう…

ご好評いただいているワラ細工シリーズ。今回は「ワラ馬」作りに挑戦します。明野をつぶるシリーズ(第三巻古い農業文化を探る)にもみられるように「馬」はほんの五・六十年前まで明野町の農業には欠かすことのできない労働力でした。農家の母屋の玄関隣には厩があり家族同様に扱われていました。全国各地ではワラ馬を作り供養したり道祖神にまつり、厄除けなどとして供えたたようです。明野町のおやなぎさんと同

様、ワラ馬を飾り終了後屋根に投げ上げ家族の健康を祈念したという風習もあったようです。今回はそんな私たちの身近な動物を対象にワラを利用して作ってみたいと思います。

実施日	令和2年2月8日(土)
時間	午後1時から
場所	茅ヶ岳歴史文化研究所ホール
持ち物	作業用手袋 飲み物
参加費	500円(おやつがあります)

明野のお神楽

恒例の「明野のお神楽」が令和元年11月10日(日)に明野総合会館にて開催されました。当日は80名を超す参加者があり十五所神社篠原宮司、建部神社石原宮司をお迎えし「お神楽奉納の為の心構えと作法」「天の岩戸神話と神楽舞の関係」について講演をいただきました。浅尾神楽会「須佐男命の舞」・浅尾新田神楽保存会、三之蔵神社神楽団「御幣の舞」を披露してもらいました。



＝会員募集＝

茅ヶ岳歴史文化研究所では、私たちと一緒に活動して下さる方、ご賛同いただける方を募集しています。

こんなことをやってみたい人は、ぜひ!

- 歴史や文化財の研究を通じて知識を深めたい
- 活動を通じて文化財保護や活用に役立ちたい
- イベントを通じてさまざまな人と交流したい

入会金 1,000円

年会費 2,000円

かやぶんかわら版 第86号

令和2年1月15日発行

特定非営利活動法人 茅ヶ岳歴史文化研究所
(かやぶん)

TEL/FAX 0551-45-7672

URL <https://kayabun1.wixsite.com/oursite>

e-mail kayabun@hotmail.co.jp